

## 2022年 年末手当交渉

### 収入動向を行う

本部は11月1日、交渉を行いました。以下、報告します。

#### 1. 2022年9月 収入動向「対計画△1,461百万円(87.5%)」

##### ・コンテナ

コロナ禍による需要低迷に加え、台風や前線停滞による各地区大雨に伴う奥羽線の不通等の災害影響を受け、全ての品目で計画を下回った。農産品・青果物は、災害により北海道発の野菜類を中心に大幅な減収となり、△229百万円となった。積合せ貨物は、災害に加え佐川急便Fプラザ作業事故の影響を受け、△214百万円となった。食料工業品は、災害影響に加え清涼飲料水のブロック自給率向上や各種製品値上げによる需要低迷等により、△156百万円となった。紙・パルプは、需要減による減産や偏積確認の影響継続等により、△151百万円となった。コンテナ全体では、対計画△1,381百万円(87.0%)となった。

##### ・車扱

石油は台風接近が相次いだことによる天候悪化に伴う需要低迷等により計画を下回った。車扱全体では、対計画△79百万円(92.6%)となった。

#### 2. 2022年度上半期収入動向「対計画△3,809百万円(93.8%)」

##### ・コンテナ

コロナ禍による需要低迷に加え、8月の北海道・東北・北陸地区を中心とした大雨に伴い一部不通区間が生じた影響等により、全ての品目で計画を下回った。積合せ貨物は、災害に加え佐川急便Fプラザ作業事故の影響を受け、△639百万円となった。農産品・青果物は、災害により北海道発を中心に減収となり、△591百万円となった。食料工業品は、災害影響に加え清涼飲料水のブロック自給率向上や各種製品値上げ等により、△484百万円となった。紙・パルプは、需要減による減産や偏積確認の影響継続等により、△381百万円となった。コンテナ全体では、対計画△3,694百万円(93.3%)となった。

##### ・車扱

石油が需要回復傾向にあるものの、価格高騰や天候不順もありコロナ禍前の水準までは戻らず計画を下回ったほか、石灰石が鉄鋼需要の低迷により減送となった。車扱全体では、対計画△116百万円(98.0%)となった。

#### 3. 2022年度上半期輸送量動向

コンテナは、新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷に加えて、8月の北海道・東北・北陸地区を中心とした大雨に伴い一部不通区間が生じた影響により、積合せ貨物、家電・情報機器、食料工業品、他工業品を除く品目で前年を下回った。エコ関連物資は、建設発生土の輸送が2021年7月に終了したため前年を下回った。農産品・青果物は、北海道地区において玉葱が前年の夏季干ばつによる作柄不良に伴い低調に推移したほか、野菜類が大雨による災害影響等により減送となった。紙・パルプは、紙需要減に伴う生産減により前年を下回った。一方、積合せ貨物は、2021年10月からのブロックトレイン運転開始等により前年を上回ったほか、家電・情報機器は、エアコンの需要回復や前年に山陽線が不通となっていた反動等により増送となった。コンテナ全体では前年比99.2%となった。

車扱は、石油が新型コロナウイルス感染症の影響緩和によりガソリンを中心に前年を上回った一方、石灰石は前年を下回った。車扱全体では前年比102.8%となった。コンテナ・車扱の合計では、前年比100.2%となった。

## 「営業部」

組合・コロナは第8波も予想されており、まだまだ油断は出来ない。収入確保のため営業部が取り組んでいることを具体的に教えて頂きたい。

会社・2024年問題、環境への優位性、労働力不足への対応等を訴えながら新規顧客、既存顧客に対して営業活動を行っている。

組合・2022年度事業計画経常収支38億から、10月改定計画で±0億円としたが、10月以降も厳しい状況が続くと予想しての数値か。

会社・1月にはコロナの影響も収まってくる想定で10月改定計画を作成した。

組合・グループ会社の状況はどうか。

会社・各グループの中間決算取りまとめを行っている最中である。

組合・世界情勢もあり、半導体不足が解消されず自動車産業が落ち込んでいるが、この影響は長引きそうか。

会社・1月にはある程度戻ってくる想定で10月改定計画を作成している。一時期よりも回復しつつあるが、その他の外的要因もあり引き続き動向は注視していきたい。

組合・今年の冬は「寒い」と予想されているが、石油輸送に変化は見られるか。

会社・上期の動向としては需要が回復傾向であるものの、価格高騰や天候不順の影響もあり計画を下回っている。寒くなれば需要は上がってくるが、引き続き今後の動向について注視していく。

組合・2021年度決算では物件費が802億だったが、2022年度事業計画では、836億と30億以上上がっている。なぜか。

会社・修繕費や業務費の割合が高い。

組合・東京レールゲートWEST・EASTは順調に推移しているか。

会社・どちらも順調に推移している。

組合・札幌レールゲートの状況はどうか。

会社・特に大きな問題はない。

組合・各鉄道会社も運賃値上げを実施しているが、JR貨物としてコンテナ料金値上げ等は考えているのか。

会社・各施策にあわせた交渉を行っている状況である。

組合・災害等の影響で、鉄道輸送から他モードに切り換えたお客様がいると思うが、鉄道に戻ってきているのか。

会社・全てが戻っているわけではない。先方のBCP対策としていくつかの輸送モードを選択する動きもある。しかし、その様な中でも、鉄道の優位性を訴えて戻ってもらえる様にしたい。

組合・「鉄道は災害に弱い」というイメージがつくと荷主が離れていってしまう。鉄道強靱化に向け、私達も取り組んでいく。最後に、厳しい舵取りを余儀なくされていると思うが、営業部としてこの窮地を打破する取り組みを何かしているのか。

会社・引き続き新規顧客、既存顧客に対して2024年問題や環境特性を訴えて、鉄道の優位性を認知

---

していただける様な営業活動を行っていく。

組合・たとえコロナが収束しても、しばらくは厳しい状況が続くと考えられ、相当厳しい営業活動が続くと思うが、この窮地を打破するべく鋭意努力して頂きたい。私達は安全安定輸送に努めていく。  
会社・よろしく願います。

### 「ここからは、人事部」

組合・2022年度上半期の結果をみれば、会社が非常に厳しい状況であることは理解するが、組合員は日々、安全安定輸送に努めていることを認識して頂きたい。

2019年4月より新人事制度導入されたが、プロフェッショナル群からの不平不満は多くあり、労働条件改善には至っていない。現在の日本は「賃金は上がらず、物価は上がる」となっており、日々の生活はかなり困窮している。

JR貨物も世代交代が進み、多くの若い社員がいるが、若い力の士気を落とすことのないよう真摯な対応をお願いしたい。

会社・コロナ禍の中、災害対応も含め、日々安全安定輸送に努めていることは認識しており、改めて感謝申し上げます。賞与の考え方として、業績に大きなウエイトがあることはお伝えしておく。貴組合の主張も受け止め、引き続き社内でも議論する。

組合・JR貨物グループ全体の士気が上がらなければ、近い将来、必ず衰退していくことを自覚し、グループ会社全体の労働条件改善も考慮して頂きたい。

会社・主張は理解する。

組合・人材は会社の財産であり、「人への投資」が必要不可欠である。組合員の士気を上げるためにも誠意ある回答を強く求める。

会社・主張を受け止め、引き続き社内で議論する。

組合・次回交渉（会社の考え）は、11月10日でよいか。

会社・11月10日でよい。

組合・組合員の悲痛な叫びを経営陣に伝え、誠意ある回答を強く求める。

会社・本日の議論を経営陣にも伝える。引き続き議論をお願いする。

以 上

---